

2025年度 年間スケジュール

4	7(月) 入学式 8(火) 春学期開始 29(火) 5/6まで春季休暇[聖]
5	1(木) [音]授業 7(水) 春学期再開
7	1(火) 春学期終了 夏休み 5(土) OBIデー OCC8Fチャペル
8	4(月) 秋学期登録締切
9	2(火) 秋学期開始
10	18(土) チャペルコンサート 24(金) 冬学期登録締切
11	18(火) 秋学期終了 19(水) 冬学期開始
12	15(月) 1/5までクリスマス休暇 学院生クリスマス会(日程未定)
1	6(火) 冬学期再開
2	21(土) 教会音楽科学年未発表会 25(水) 冬学期終了
3	7(土) 卒業式

※2025年度より
聖書科・教会音楽科共に3学期制

OBI デー
学びと讃美が深まる体験

2025年7月5日(土)
10:00-15:00

お茶の水クリスチャン・センター
8階チャペル

受講料:3,000円(事前お振込み)

聖書科講義
「黙示録における讃美」



講師
遠藤勝信先生

東京女子大学教授
(聖書学担当)
聖書翻訳
聖書注解書執筆に従事

教会音楽科ワークショップ
ハレルヤコーラスを歌おう

指導
斉藤とし子先生



OBI教会音楽科教師
オルガン・声楽・聖歌隊指導を担当

OBI学院生・同窓生はもちろん、初めての方・ご関心のある方などでもご参加いただけます。ぜひお誘い合わせの上、ご参加の申し込みをお願いいたします。



お申込みはこちら▶
申込み締切 6月30日

ご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

お茶の水聖書学院事務局
obi@ochanomizu.cc

皆さまの尊いご献金を
心より感謝申し上げます。

2024年10月1日～2025年3月31日

- 市川北バプテスト教会
 - 宇都宮聖書バプテスト教会
 - 荻窪栄光教会
 - 鎌倉海岸キリスト教会
 - 久遠基督教会
 - 小平聖書キリスト教会
 - 茅ヶ崎同盟教会
 - 東京中央バプテスト教会
 - 古河教会
 - 百合ヶ丘バプテスト教会
 - 横浜キリスト福音教会
 - 飯島 延浩
 - 石井 由紀
 - 植木 朋子
 - 岡本 やよい
 - 甲斐 博
 - 柏俣 朝子
 - 川島 正子
 - 川村 和臣
 - 菊池 実
 - 工藤 紘子
 - 小池 力夫
 - 坂本 誠
 - 塩野 孝子
 - 高橋 和子
 - 田中 恵子
 - 内藤 清吉
 - 中平 悦子
 - 中村 良子
 - 野村 佳代
 - 濱砂 尚子
 - 原 正子
 - 福井 ちよ
 - 藤原 導夫
 - 増岡 寧
 - 松本 雅弘
 - 脇坂 勇
- OCCお茶の水聖書学院後援会・同窓会

Ochanomizu Bible Institute

OBI News Letter



Issue 69 2025 Jun/1 お茶の水聖書学院 /OBI 後援会・同窓会 www.ochanomizu.cc/obi/

101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル 3F Tel/03-3296-1005 Fax/03-3296-1010 Mail/obi@ochanomizu.cc



実現するのは主の計画

「人の心には多くの思いがある。しかし、【主】の計画こそが実現する。」
(箴言19:21)



学院長 大井 満

「2030年問題」というのは、あくまでも、ある教団の統計上の予測ですが、教会員(現住陪餐会員)の平均年齢が、2030年には平均寿命を超えてしまうということです。この予測が妥当だとすれば、その結果は目に見えています。そしてこの「2030年問題」という言葉は、決して他人事ではないと、多くの方々が受け止めています。

OBIもこの危機意識を共有していて、2026年度から再び教職(牧師や伝道者など)の養成をと準備してきましたが、いったんこの計画を取り下げて、延期する判断に至りました。

しかし冒頭に掲げた日本の教会が直面する課題、特に献身者、教職の不足は明らかですから、信徒としてこの課題に積極的に関わっていくとする方々のニーズに応えることは、必要不可欠で急務であると受け止めています。

そこで、カリキュラムの内容を見直し、諸教会・諸教団が認めてくださるならば、

信徒伝道者、信徒説教者、「勸士」などとして奉仕してくださる方の学びと養成にも対応する教育機関として、広く教会に仕えていきたいと願っています。

もちろん、これまで通り、教会役員、CS教師などの奉仕に備える学びにも十分応えていくのは当然のことですし、教会音楽の学びにも同様に心を尽くしていきます。

昨年の秋に発行した「OBIニュース」の巻頭言で述べた方針を変更することになりますが、「【主】の計画こそが実現する」と信じる謙遜さを持ちたいと思います。

パウロの伝道旅行もそうでした。マケドニア人の幻を見たトロアスに、パウロたちはこのように導かれてきたのです。「それから彼らは、アジアでみことばを語ることを聖霊によって禁じられ」(使徒の働き16:6)、「ビティニアに進もうとしたが、イエスの御霊がそれを許されなかった。それでミシアを通して、トロアスに下った」(同

16:7～8)のでした。あの偉大なパウロが伝道のために考え、立てた計画でも、神の御心に添わず、神が道を示してトロアスに導かれたのです。ここから彼らはアジアを離れてヨーロッパへと福音を携えていくことになりました。

これまでの聖書科は、「神学コース」に名称を変更します。まず基礎課程(標準年限2年)で学び、さらに専門課程(基礎課程を終えてからさらに1年)へと進むことができます。また教会音楽科は「教会音楽コース」と名称を変更します。各コースや課程の詳細は、秋に発行されるパンフレットなどで確認していただくことになります。なお、現在の在学学生の方たちはそのまま学んでいただけますので、ご安心ください。

ぜひ祈りに覚えていただいて、OBIで学んでください。また信徒の方々をお送りください。



トロアスの遺跡



OBI聖書科 2024年度報告

OBI教務主任
山村 諭

学窓トピックス



4月7日、2025年度入学式が行われました。聖書科正科1名、教会音楽科5名が新たに学び始めました。春学期の聖書科受講生総数は88名、教会音楽科は16名となりました。教務山村もボイストレーニング(葛葉先生)の実技レッスンを受講し始めました。さっそく説教の声が聞こえやすくなったと教会員の感想もあり、やる気が高まっています。

これまで毎週水曜にOCC8階チャペルで行われていた「水曜礼拝」をOBIの働きに位置づけることとなり、4月から「水曜礼拝・OBIチャペル」(11時から11時半)としてスタートしました。説教者は現在のところ、大井学院長、教務山村、阿部頼義先生、高木誠一先生、ペアンテ・ポーマン先生です。水曜日のチャペルにもぜひお集まりください。

学院全体としては、2026年度の新体制に向けて準備を進めています。秋には2026年度パンフレットでご案内を開始します。

諸教会、後援会・同窓会の皆さまのお祈りとお支えに心から感謝しつつ、引き続き力強いお祈りとご支援をよろしくお願いたします。

2024年度は聖書科正科に4名が入学し、正科全体で17名、聴講生は60名の方が学びました。海外から受講して下さる方も増えました。オンラインで受講する方が多数ですが、月に1度は教室に集まり対面で授業を行うクラスも増えてきました。授業後には図書ラウンジで食事をしながら議論をしたり、情報交換をしたりする交わりも見られ、集まる事の価値や喜びを再確認させられています。

サマースクーリングは7月8日～9日に山崎製パン総合クリエイションセンターで行われました。越智馨先生(茅ヶ崎恵泉教会牧師)を講師として、「教会における非言語コミュニケーション」をテーマ

2024 Summer Schooling



2024年度卒業式



2025年度入学式

に学びました。伝えたい大切なことを伝えるための知恵と創意工夫が詰まった学びでした。冬学期には越智先生による同テーマのクラスが開講され、充実した学びが展開されました。2025年度も冬学期金曜4限に開講します。

3月8日には卒業式を行い、聖書科正科から8名が卒業しました(卒業生の証しは4-5頁に掲載)。「主と教会に仕える人」を育成するOBIの学びを通して、教会やそれぞれの家庭、また地域社会に良き変化が起こることを心から願っています。



Voice training



Chapel concert



OBI教会音楽科 2024年度報告

教会音楽科主任
内藤 真奈

2024年度は13名の学院生が与えられ、オルガン・ピアノ・声楽の各実技レッスン、聖歌隊クラス(指導法含む)の年間各16回(発表会含む)の学びや年間行事が全て守られ祝されたことを主に感謝いたします。

特に、毎年7月に開催している教会音楽デー(第26回)は、中山信児先生による講義「賛美の多様性と広がり」、武義和先生のご指導による演習「賛美歌を作りましょう!」が行われ、39名(対面20名)の参加者が与えられました。後日配信されたオンデマンドでの学びも活用され感謝でした(教会音楽デーについての学院生の感想・証しはOBIニューズレター第68号をご参照ください)。



中山信児先生

武義和先生

10月には教会音楽科教師および学院生(聖歌隊)と有志によるチャペルコンサートが行われ、音楽を通して主を賛美する幸いと喜びを分かち合いました。来場者の中には未信者の方々もおられ、証しの機会ともなりました。



2025年2月の学年末発表会では、学院生たちが一年の学びの成果を発表しました。今回は聖書科の姉妹が学院生のコメントの朗読をしてくださり、和やかな雰囲気の中、良き会となりました。

会の最後には、25年間教会音楽科で学び続けられた姉妹へ花束と色紙をお渡しし、ともに主に感謝する時を持ちました。

主の憐みの内に、2024年度の歩みも守られました。皆様のお祈りとご支援に心から感謝申し上げます。



2025年度時間割: 春・秋・冬学期各5回(2月に発表会)※個人レッスンの時間帯は要相談

火	10:30-19:00	オルガン/ピアノ 内藤真奈
水	13:00-19:45	オルガン/ピアノ 内藤真奈
	14:30-19:45	ボイストレーニング 葛葉美奈子
木	15:15-20:30	声楽/オルガン/聖歌隊(指導法含む) 斉藤とし子



2025年度ご案内

2025年度、教会音楽科は新しい形でスタートしました! 聖書科同様、三学期制でレッスンとクラスを進めています。年間15回(各学期5回)の学び、そして年度の締めくくりとして2月に学年末発表会を開催いたします。

また、今年度より、実技レッスン(オルガン/ピアノ/声楽)に「ボイストレーニング」という新しいレッスンが加わり、スタートいたしました。これらのレッスン、また聖歌隊クラス(指導法含む)をご自分のニーズに合わせて受講いただけます(複数選択可)。

なお、今年度は聖書科(冬学期)で、初めて教会音楽に関わるクラス「讃美歌史」(中山信児先生)が開講されます。期待しつつご受講くだされば幸いです。

毎年恒例の教会音楽デーは、聖書科のサマースクーリングと合同の形で「OBIデー」として7月5日(土)に開催いたします(詳細・申込みは本紙の案内、またはHPやチラシ参照)。

チャペルコンサートは10月18日(土)、学年末発表会は2026年2月21日(土)に開催予定です。別途チラシやHP等でご案内いたしますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今年度の履修登録者は16名(うち新規4名)です。学院生の学びのため、また、今後も新たに学ばれる方が一人でも与えられるよう、引き続きお祈りとご支援をお願い申し上げます。



日本福音キリスト教会連合
甲府キリスト福音教会
川久保 進

卒業研究
甲府キリスト福音教会の歴史
指導教師/ 坂本誠先生

整えられる喜び 楽しくて刺激的な3年間の正科の学びでした。旧新約聖書の学びから、教会が信仰共同体であることを知り、人間関係だけを見がちな私の教会生活は変わりました。牧会学の学びでは、聖霊の働きによって牧師は語り、聞かざる、私自身が変えられることを意識するようになりました。あちこち歪みのあった信仰生活をOBIの学びによって整えていただきました。

卒業研究は、坂本誠先生にご指導いただき、明治からの山梨県の宣教史を含め、甲府にある所属教会の歴史について研究しました。神道を超宗教化し、キリスト教を排除する働きが今も続いていることに身が引き締まりました。失敗を繰り返しているような私たちの教会でも、主権者は神様であり、その働きは人に左右されないことを知り、慰めをいただきました。

4月以降、私がどのように神様に用いられるのかは分かりませんが、一教会を越えた教会支援、シルバー世代の伝道と信仰生活の励ましに用いられば感謝です。

あちこち歪みのあった
信仰生活を
整えていただきました。



日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
中央聖書教会
小池 力夫

卒業研究
どうしたらイエスを伝えることができるか
指導教師/ 大井満学院長

神の姿で見ることができない

OBIで得た私の恵み コロナ前の2019年4月、私のOBIの学びがはじまりました。一年目は、お茶の水の教室での学びでした。さまざまな教会の方々との学びは、講義の恵みとともに良き交わりの時となり、集われた方々の学ぶ姿は、懐かしくも印象深いものとなりました。良き思い出です。

聖書を学びたいとの願いは信徒の共通の願いであると思いますが、何処へ行けば安心して学べるのかと考えたりもします。OBIの学びは、知性においても、霊性においても、経験においても良き学びの時となり感謝でした。

最後にお証しで結びたいと思います。旧約の学びでのことでしたが、それぞれがその書簡で何が語られているのかを発表する時がありました。私が汲み取ったのは、神の聖さと厳格さでしたが、次の方は同じ書簡から神の愛を汲み取っていました。私には見ることができない神の姿でした。その時、私も神の愛に目が開かれました。そして、神の愛は私の信仰のテーマとなりました。



日本同盟基督教団
石神井福音教会
佐竹 正規

卒業研究
ローマ人への手紙8章4節に見られる
聖霊の働きについて
指導教師/ 山口希生先生

すばらしい学びに感謝 2021年10月より聴講生、翌年4月から正科生として3年半学びました。どの授業もすばらしく、これからの指針をいただけたと思います。ちょうど所属している教会が法人格を取得するタイミングだったので、教会実務の授業はとても有益で、昨年無事取得できました。組織神学やキリスト教史を学ぶことの重要性を知ることもできました。説教を学び、毎週の説教の聴き方が激変しました。聖書を1年間じっくり読み込むことによって次から次へと新しい発見があったのは驚きでした。その最たるものは卒業研究で、山口先生の指導のもと『ローマ人への手紙8章4節に見られる聖霊の働きについて』というテーマで取り組みました。聖書の1節を数か月かけて熟考することは、とても大変でしたが、恵まれた経験でした。この3年半は自分の信仰生活にとってかけがえのないものとなりました。今後は、OBIで学んだことを教会での奉仕に生かしていきます。本当にありがとうございました。

所属している教会が
法人格を取得する
タイミング



単立
さいたま福音キリスト教会
高橋 和子

卒業研究
ルカ福音書におけるイエスの癒し
指導教師/ 高木誠一先生

対面もZoomも
それぞれの良さが

恵みの学院生活 主の御名をほめたたえます。今年の3月に卒業という一区切りを迎えることができました。現在は聴講生として、さらに細く長く学ばせていただいております。

良い働き人になりたいという思いと、所属教会の牧師の勧めにより、2015年にOBIに入学しました。多くの先生方から教えていただき、兄弟姉妹との出会いがありました。入学から数年間は教室での対面で、特に思い出深いのは堀肇先生クラスです。先生の大好きな紅茶を皆に入れてくださり、香りを楽しみ味わいながら先生の書籍を輪読するという回もありました。対面もZoomもそれぞれの良さがありますが、今年度は初心に帰り、時間を作り教室に集みたいのです。いつも恵みを注いでくださる神様への感謝を忘れずに、置かれた所で神様と人々にお仕えしていきたいです。

わがたましいよ。主をほめたたえよ。
主のよしてくださったことを何一つ忘れるな。詩篇103篇2節



日本同盟基督教団
茅ヶ崎同盟教会
内藤 清吉

卒業研究
パウロの回心：その過程と本質について
指導教師/ 岩上敬人先生

再構築する大切な時
自らの信仰を

OBIに学んだ証 OBIの学びは、神学について無教養であった私が、四つの神学諸科の先生方による講義を通して、確かな信仰と新しい知識を吸収し、自らの信仰を再構築する大切な時でした。その中から、一つの形にまとめた「研究論文」が卒業と認定され、嬉しく思います。

卒論のテーマは、非才を顧みず『パウロの回心—その経過と本質について』としました。回心の要因を彼の認罪意識(良心の呵責)と考えてきた私は、講義の中で復活のキリストの顕現(神の救いの計画に基づく)によるとの主張に反感を覚えたのです。しかし、聖書を基に論考する中で考えが変えられました。旧約と新約との救いの枠組みの交差点で、迫害するサウロに巨大隕石が落ちるように主が正面衝突し、彼はキリストは律法の完成だと悟ったのです。

パウロは終末の時代を知り、神の恩恵体験にあずかり、異邦人宣教に召されました。主のものとされた私も、被造物全体の贖われる完成の時を確信し福音を伝えます。OBIと先生方に感謝!



保守バプテスト同盟
高崎キリスト福音宣教会
中村 道夫

卒業研究
出エジプトについて
指導教師/ 坂井孝宏先生

恵み豊かな学びの時 お茶の水聖書学院での3年間の学びの恵みを感謝いたします。

やさしく、静かな思いあふれる講師の先生方による講義、様々な教会で信仰生活を送る受講生との学びは特別な恵みの時でした。

靈感によって記された聖書には、たくさんの豊かな内容が含まれていることを知りました。それは文脈や記された背景、他の箇所との参照などによって明らかになります。新約聖書と旧約聖書の関係も多く知ることができました。そして私たちの信仰はキリストと共に行動し、復活の証人となった使徒の教えによっていること、礼拝で告白している使徒信条がその基本にあることと、その重要性を改めて知ることができました。

またていねいにご指導いただいた卒業研究を通して、神さまの大いなる御計画が歴史を通して力強く働いていることに気づかされました。学びを通して得た恵みをさらに深め、これからの教会生活と奉仕に生かしていきたいと願っています。

様々な教会で
信仰生活を送る受講生との
学びは特別



基督兄弟団
西宮教会学園都市チャペル
西岡 稔

卒業研究
環境問題に対する
教会の役割についての考察
指導教師/ 高木誠一先生

問われる学び
歩んでいくべきなのか

学びをふり返って 仕事に追われる日々、自分の足りなさや渇きを覚えつつ、新しい歩みを祈り求めていきたい、聖書の恵みに浸りたいという思いから、長年勤めた会社を退職したことを機にOBIに導かれました。

学びを通じ、これまでの歩みや信仰を見つめ直す機会が与えられ、特に聖書の語る救いのご計画について、新たな光が与えられたことは大きな恵みでした。神の国の完成の約束と現実世界との狭間で、教会そして私自身が今後どのように歩んでいくべきなのかを問われる学びであったと思います。

卒業研究では「環境倫理」を取り上げました。環境問題は、教会の具体的な取り組みに落とし込みにくい課題です。しかし教会は、この終末の時代に神の救いの計画の中に立てられ、和解のこぼを委ねられているということを感じ巡らす機会となりました。さらに今後もこの学びを深めていきたいと願っています。先生方のご指導、皆様のお祈りに感謝申し上げます。



基督兄弟団
西宮教会ニューコミュニティ
吉田 正明

卒業研究
罪と救いにおける
西方教会と東方正教会の違いについて
指導教師/ 山口希生先生

OBIでの学びを振り返って 信仰上の問いの解決を求めながらも、3年間の学びを続けられるか不安のまま飛び込んだOBIでしたが、卒業にあたり自身の問いに関する論文を書き上げることができたことは大きな喜びでした。ただ、受けたかったものの取れなかった授業があったこともあり、これでいいのかという未消化の気持ちのまま卒業させてもらったというのも本音です。

授業では教団教派の異なる受講生の中で質問や意見交換をすることにより、より深い学びができたと思います。先生方の雑談やコメントの中で、礼拝説教では語らない(語れない?) 思いや考えを知ることでも、毎回の授業を楽しみにしていました。

これからも学び続けていく姿勢を大切にしたいと思いますが、「受けるよりも与えるほうが幸いである」という御言葉を胸に信徒奉仕者として歩んでいきたいと思っています。

礼拝説教では語らない
(語れない?)
思いや考えを知る

教會的アドミニストレーション学1

教會・宣教団体が直面する
会計や法律などの実務分野の課題。

現実を治める力と思考を身に着け、
神の国を建て上げる人材育成を目指します。

過去2年にわたって「教會実務を神学する」基礎講座、実践的に学ぶ「教會実務研修コース」を開講し、受講生と学びの時間を重ねてきました。テーマによっては税理士・行政書士・社会保険労務士をお招きしての講義もありました。その経験を土台にして2025年4月から「教會的アドミニストレーション学1」がスタートしました。

この講座では教會・宣教団体の実務的な課題を丁寧に取り上げて分析していきますが、個々の事案を直接解決する「よろず相談所」的な講座ではなく、教會・宣教団体が直面する会計や法律などの実務分野の課題にキリスト教的世界観を軸にした本質的な教會的課題を抽出し、事案に対してふさわしい「問い」を立て、教會・宣教団体の意思決定に資する思考を身に着け、神の国を建て上げることに参画する人材育成と交わり



山崎 龍一

お茶の水クリスチャン・センター常務理事
カンバーランド長老教會高座教員

形成を目指しています。春学期は基礎知識、秋学期は主に専門家による実践講義、冬学期は事例研究に取り組みます。

例えば宣教団体が慢性的な赤字のとき、特別な献金が与えられて一時的に収支改善することがありますが、それでは本質的な解決になりません。赤字の本質的な理由をどのように受け止め、どのように解決への道筋を立てていくことがふさわしいのかを考えると共に、その使命に献身する人材の育成もこの講座の視野に入っています。

道筋の立て方・思考の軸を本講座では「教會的」という言葉で表現しました。教會には心を揺さぶられるすばらしい歴史がありますが、同時に様々な負の歴史も経験してきました。その傷みを伴う負の歴史にも目を背けず教會は自らの立ち位置を明確にする

ため、聖書に基づく信仰告白を形成し、様々な教會政治の仕組みや規程を整えてきました。

聖書のみを標榜した宗教改革時に多くの信仰告白や信仰基準が生まれてきたという歴史も、教會の取り組みのひとつと言えるでしょう。三位一体、宗教改革、信仰基準、福音主義などは単語としては聖書に登場しませんが、教會が現実の課題に向かい合う中で培ってきた大切な告白と神学的思考です。教會が言葉と思考を整え、悔い改めと回復、そして現実を治める力を養ってきた歴史を心に刻むアドミニストレーションを構築するため、また共同体としての意思決定に資する思考を構築するために本講座では「教會的」という言葉を用いることにしました。

教會に仕える言葉と思考の整えられた人材が本講座から育てられていくことを願っています。

2025 秋冬のオススメ

実践神学特講

サーバントリーダーシップ



秋 火曜4限(19:00-20:30)

豊田 信行

ニューライフキリスト教會牧師

米国の著名な神学者ウィリアム・ウィリモンは自著「牧師」のなかで、「リーダーとしての牧師」という章を書いています。

“牧師が働く時間の大半は、教會のリーダーシップに関わることに費やされる。そして、もちろんそれは望ましいことでもある。”(p. 414)

最初、ウィリモンの言葉を読んだとき、首をかじりました。牧師の働きは、「祈りとみことば」ではないか、そう思ったからです。しかし、彼は牧師の働きの大半がリーダーシップに関わっていると主張しています。イエスは卓越したサーバント・

リーダーでした。「サーバント」と「リーダー」という、相反する概念に当惑する方も少なくありません。イエスは、「あなたがたの間では、そうであってはなりません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、皆に仕える者になりなさい。」(マタイ20:26)と教えられました。リーダーになることが目的で、仕えることは手段だと言われました。しかし、「仕える者」(サーバント)となることが目的になってしまうことはないでしょうか。

キリスト者はサーバントの心を持ったリーダーとなることで家庭、教會、社会、世界は大きな恩恵を受けるのです。一緒にイエス・キリストのリーダーシップを学びましょう。

実践神学特講

「穏やかな自己主張」境界線(バウンダリー) 初級編



冬 火曜4限(19:00-20:30)

豊田 かな

ニューライフキリスト教員

他人との距離感や、自分の気持ちの伝え方に悩んだことはありませんか? 自己主張と聞くと、強く言わなければならない印象がありますが、本当に大切なのは、「穏やかに、でもしっかりと」自分を表現することです。

この10回講座では、聖書に基づく「境界線(バウンダリー)」の考え方を学びながら、他人との健やかな関係、自分自身との向き合い方、そして神様との深いつながりを見つめ直していきます。その中で神様が創ってくださった“私らしさ”を見出し、自分の願いを再発見することを通して、しなやかなレジリエンス(心の回復

力)が育つように願っています。

毎回の講座では、境界線の基本概念に関する学びと、日常のちょっとした場面を取り上げながら気持ちの整理の仕方、言葉の選び方、関係性の築き直し方、など具体的に知ることができます。また、自身の学びとともに小グループで用いることのできるフォーマットを用意しています。親しい人と励まし合いながら、穏やかに、でも確かに自己を表現する方法を身につけていけるよう工夫しています。

みなさん自身をもっと大切にするための時間を一緒にできたら幸いです。

讚美歌史

さあ 主に向かって 喜び歌おう。私たちの救いの岩に向かって 喜び叫ぼう。 詩篇95篇1節



冬 水曜1限(11:00-12:30)

中山 信児

日本福音キリスト教會連合
菅生キリスト教會牧師

詩篇が教えるように、すべての信仰者は讚美に招かれています。讚美は、音楽の奉仕である以上に、信仰の奉仕であり、教會のいのちに関わる奉仕です。同時に、音楽という衣装をまとう讚美は、讚美する者の感性、技術、嗜好といった人間的な部分と無縁ではありません。讚美が真の意味で讚美であるためには、それらを見つめ直し、教會の信仰のもとに正しく位置づけることが大切です。

「讚美歌史」のクラスでは、3つのことを学びます。

第一に、聖書時代から宗教改革を経て、現代に至るまでの讚美の歴史を、教會を取り巻く社会の変化に目を留めつつ

概観します。讚美についての知見を広め、理解を深めることは、実際の問題や課題について考え、取り組むときの基礎となります。

第二に、礼拝等での讚美に関わる実際的な問題について、質問を受けながら取り扱います。

第三に、社会の衰退や分断、デジタル化の進展なども見据えながら、教會の歴史的遺産を継承することの意義や、将来の讚美や歌集のあり方について考えます。

主が私たちを、より良い信仰者、礼拝者、讚美者として用いてくださいますように。